

二十八回蒼天句会 今月の一句

令和七年二月十三日 兼題…春浅し、又は自由

春立つやアボカドの種ぽんと抜け 公子

部屋深く届く陽射しや浅き春 婦紗子

笠雲のかかる富士山春浅し 賢一

春浅き終着駅の吹き溜まり 繁一

孫連れて来たる倅とおでん鍋 孝志

生え初めしみどりごの歯や春浅し ムツミ

うぐいす餅ワークショップの人の列 信江

のどけしや玻璃戸に映る空の青 静江

魁けて寒紅梅の二三輪 鎮夫

藁帽子の中に鎮座の寒牡丹 隆彦

銀翼の行く空深し浅き春 隆男

弔問の帰路を灯せり白椿 重子

三番瀬の波の煌めき春浅し 紹子

月毎に来る鉢の花春つれて 久恵